

2020.11.29 待降節第一主日

## 目を覚ましていなさい

マルコによる福音 13:33-37

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」

### 説教

「主人の帰り」 = 「キリストの再臨」のたとえになっているのだと思います。いつ主人が帰ってくるかわからないから目を覚まして見張っていなさい、とイエスは弟子たちに告げます。そしてこう付け加えています。

**あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。マコ  
13:37**

わたしたちみんなに目を覚ましている、とイエスは命令しています。カメラの技術がすすみ、世界のいたるところに監視カメラがあるようです。またテレビニュースでは視聴者映像といって誰かが目撃した光景がスマホで撮影しれ動画が放送されます。日本が夜中でも地球の反対側では昼間です。世界の監視カメラの映像を誰かがモニタリングしていればイエスの命令「目を覚ましていなさい」は実現されたことになります。技術的にはわたしたちは眠っていても目を覚ましていることになるようです。私が眠っていても世界の誰かは起きている。わたしが目をつむっていてもカメラのレンズは見ている、ということです。

わたしはいぜん「イエスの再臨」は臨時ニュースとして世界中にテレビで流れるのだから眠っていても大丈夫かも、と考えていました。でも今はテレビでニュースを見るよりスマホのアラートで再臨の知らせは届くようになるのかも、と思っています。

「主人の帰り」のたとえをとおしてイエスが弟子たち、そしてすべての人に告げた本当のところは、終わりは始まりであり、始まりは終わりでもあるということだったのだろうと考えています。

-----